

未来を創造するリーダー育成推進プロジェクト

平成25年度実施報告書

1 学校の現状と課題

本校の使命は、校訓「質実剛健」、教育目標「文武両道」を実践し、社会人として健全な判断力と行動力を兼ね備えたリーダーの育成である。平成22年度に「進学指導重点推進校」の指定を受け、生徒の学力向上や進路指導の充実に係わる様々な取組を実践してきた。この間、一貫して重点目標に難関大学の進学実績の向上を掲げ、取り組んでいる。

平成25年度「難関大学への進路実績の向上に係わる評価項目」は次の3点である。

- (1) 難関国立大学合格者（東京、京都、北海道、東北などの旧帝国大学、一橋大、東工大、国公立大学医学部医学科）30名以上
- (2) 国公立大学合格者 140名以上
- (3) 難関私立大（早稲田、慶応、上智）合格者 150名以上

平成25年度の評価項目毎の実績は、次の通りである。（3月24日現在）

- (1) 37名（前年度より10名の増加）
- (2) 143名（前年度より13名の増加）
- (3) 132名（前年度より25名の減少）

本校では、難関国立大学及び国公立大学医学部医学科に合格させるために、次の2点を課題とし、重点的に取り組んでいる。

- ① 1学年から日々の授業にしっかり取り組ませるとともに、学習習慣を定着させ、部活動から引退する時期までに基礎学力を養成する。
- ② 2次試験の個別試験対策をより一層重視し、実力養成のための取組を充実させる。

特に今年度は、進路指導部を中心に、①の課題を強化し取り組んできた。基礎学力の定着及び家庭学習時間の確保である。具体的には、次の3点である。

- ・完全下校時刻の遵守
- ・家庭学習状況調査の実施

（実際の学習時間調査を3回実施し、担任の進路面談に活用する。さらに、部活動毎に集計し、部活動顧問からも指導し、学習時間の確保に努める。

- ・1学年基礎鍛錬講座の通年の実施

（1学期だけでなく通年で実施することで、学力の低い生徒の固定化を防ぎ、学習習慣を確立させる。）

取り組みの結果として、特に2学年では以下の結果となった。

平日の学習時間が 1学期（82分）→2学期（104分）

休日の学習時間が 1学期（111分）→2学期（128分）

十分な学習時間の改善には、つながらなかったが、次年度も継続して実施していく。

今年で「未来創造・リーダー育成推進プロジェクト」は2年目を迎えるが、本校の目指す学校像「社会人として健全な判断力と行動力を兼ね備えたリーダーの育成」に向け、さらなる取り組みを実践していく。

2 本校における24年度までの取組についての概要

1 自己認識及び自己啓発の確立

- (1) 新入生オリエンテーション合宿
- (2) 運動部合同ミーティング

- (3) 1, 2 学年早朝学習（授業開始 10 分前）での小論文指導
- (4) 3 学年早朝学習（授業開始 10 分前）での入試問題演習
- (5) 1, 2 学年小論文演習（総合的な学習の時間）
- (6) メルボルンハイスクール交流事業

2 進路意識の向上

(1) 進路講演会

●1 年進路講演会

6 月 「春高生になるために」（全員：進路指導主事）

1 1 月 進路講演会（全員：ベネッセ）

2 月 進路トーク（全員：社会人のOBによる職業についてのパネルディスカッション）

2 月 難関大志望者説明会（希望者 50 人：大学生のOBと進路指導主事）

※今年度より実施

●2 年進路講演会

7 月 難関大志望者説明会（希望者 100 人：駿台予備校）「実際には台風のため 12 月に実施」

1 1 月 「進路実現のために残された 春高生活をどう過ごすか！」（全員：進路指導主事）

3 月 合格体験を聞く会（全員：現役合格者による体験談）

●3 年進路講演会

4 月 「受験生になるために」（全員：進路指導主事）

6 月 P T A 主催保護者対象進路講演会（保護者約 350 名：進路指導主事）

(2) 大学模擬講義

1 年模擬講義 10 月 千葉大学工学部教授 斉藤恭一先生

2 年模擬講義 10 月 東京大学工学部准教授 下山淳一先生

(3) 大学体験授業

6 月の文化祭代休日に 6 大学(6 学部)で実施、450 名参加

①慶応大学（55 名 大学概要，入試説明 模擬講義）

②一橋大学（47 名 OB 2 名による大学概要説明、キャンパスツアー）

③早稲田大学（110 名 大学概要，入試説明，模擬講義）

④筑波大学（87 名 大学概要，入試説明）

⑤東京理科大（40 名 大学概要，入試説明，模擬講義）

⑥千葉大学（111 名 大学院生による研究発表，研究室見学）

(4) 大学見学会

●7 月 東北大キャンパスツアー 76 名（2 年名 67 名、3 年 9 名）が参加

※今年度より実施

●7 月 東京大学見学会 34 名（1 年生 25 名、2 年名 7 名、3 年 2 名）が参加

(5) 進路意識啓発のための面談

1 年・2 年は担任による面談を年 3 回以上実施

3 年は担任による面談を年 5 回以上実施、また今年度より難関国立大志望者に対して学年主任と進路指導主事による面談を実施

【生徒の主な感想】

★進路トーク

佐藤祐二先生の現在のお仕事の内容とご苦労談の話が印象に残りました。臍帯血のケースと中身の血液、たった70gに一人の命と周りの人との関わりという重さが詰まっていること。20年以上も働いていても、それを扱うときに手が震えてしまうことを聞いて、やはり人の命というものには数字では表せない重さがあると実感した。将来の職業について、やりがいと責任を知ることができた。

★合格体験を聞く会

先輩方から貴重なお話を聞くことができ本当に参考になった。一番印象に残ったのは「受験は団体戦」であるということだ。3年生になるにあたって学年全体で良いムードを作れると良いと思った。

★大学体験授業（早稲田大学）

医師の義務が患者の命を尊重することなのか、それとも患者の意志を尊重することなのかについてとても深く考えることが出来て良い機会だったと思う。討論形式の授業はとても新鮮に感じた。いろいろな考え方（春高生）があって、その分共感できて面白かった。多くの人が目指す有名な大学だけあって、大学の雰囲気、設備もとても良く、講座も法学部志望でない僕にさえもためになる内容で良かったと思った。

★東北大キャンパスツアー

午前は先輩達との交流があり、午後は各自で見学するというちょうど良い時間配分だった。お陰で東北大学を沢山感じ取ることが出来た。東北大学に行きたいという気持ちが強まり、これから頑張っていけそうだ。

★東京大学大見学会

研究費などの面で日本一であるものすごく充実していたと思った。しかし、一番感心したのは自分たちを案内してくれた大学院生の態度だった。下山先生が大学院も知らない実験を行ってくれたとき、興味をすごく持って聞いていた。自ら取り入れようとする態度は大切なことだと思った。是非来年も参加したい。

3 学力の向上

- (1) 65分授業の充実
- (2) 自校作成問題の実力考査の実施と「大学進学参考資料」の作成
- (3) 外部模擬の実施
- (4) 土曜公開授業での授業時間の確保
- (5) 新入生スタートアップセミナーの実施
- (6) 夏季休業日の進学講習

1、2年生は今年度より夏休み第1週の午前中は、部活動を休止し、講習を優先して実施した。

3年夏季講習は今年度より夏休み全般（6週×6コマ）で計画した。その甲斐あって、51講座を開講し、のべ2174名、生徒の94%が参加した。

4 教員の指導力の向上

- (1) 生徒による授業アンケートの実施
- (2) 校内進路検討会の実施
- (3) 入試分析会及び教育セミナー等への参加
- (4) 年次研修者を中心とした公開授業の実施

5 不動岡高及び越谷北高校との3校連携事業での取組

- (1) 小中学生のためのサイエンス教室（9月22日に本校で実施 約700名参加）
- (2) 進路意識啓発シンポジウム（3校のOBによるパネルディスカッション）
⇒12月21日（土）に本校で実施（主催：不動岡高）

3 今年度から重点的に実施している取組

1 リーダー育成活動（平成25年度入学生）

- (1) 新入生オリエンテーション合宿でのリーダー育成活動（4月18日～19日）
 - ・課題解決学習で、リーダーとしての資質について考える班を作り、考え討議する形でまとめさせる。
 - ・校長講話を受け疑問点を校長に質問し、リーダーのあるべき姿をまとめ、全体の場で発表する。
- (2) HR委員を中心とするリーダー育成活動、
 - ・正副HR委員長のリーダーの意義を育てる。
 - ・正副HR委員を中心に、クラスとして目標を決め、見える形で掲示する。
 - ・クラスがクラステーマと乖離した場合、HR委員を中心に話し合いの場を設ける。
 - ・HR委員主導で整列点呼等を行い、生徒が自主的に規律を守れるようにする。
 - ・マナー違反の状況に対し正副HR委員を中心に、クラスで話し合いを持つ。
- (3) 発信していく力を育成する。
 - ・朝読書で読んだ本について、自分の意見をまとめる。
 - ・朝読書で「17歳のための世界と日本の見方」を読み、著者「松岡正剛」氏を講師として講演会を開催する。
 - ・小論文を書かせたり、意見を発表する場を設ける。
 - ・学年集会において、代表生徒がその時々自分の思いを発表する機会を設ける。
 - ・学年通信に、代表生徒がその時々意見を発表する機会を設ける。

2 地域との連携協力（昨年度より生徒会が実施）

- (1) 地元自治会と連携し「あったかタウン八木崎創造事業」の企画運営。
地元自治会が行っている地域活性化事業の依頼を受け、生徒会が中心となって実施した。
本校南門の前にある、税務署跡地公園に花絵（4×6メートル）を作成した。11月3日（日）の開催イベントでは、市長その他多くの来賓が参列し、合唱部（20名）の生徒がパフォーマンスを披露した。

3 県教委等の取組への参加状況

- (1) 東京大学副学長と高校生による講演会及びパネルディスカッション
（10月26日 1年生2名が参加。引率：関教諭）
- (2) 高校生のための「世界に目を向ける講演会」
（10月27日 2年生1名、1年生2名が参加。引率：橋本教諭）
- (3) 東日本大震災被災地訪問（11月1日～2日 1年生2名が参加。）

【参考資料】

(1) 第1学年オリエンテーション合宿

期間：平成25年4月18日(木)・19日(金)

場所：磯部ガーデンホテル(群馬県安中市)

細部日程：

4月18日(木) 8:50出発 12:30ホテル磯部ガーデン着

- ・開講式
- ・研修(10テーマに分かれて課題解決型のグループ学習「イカモン」)

4月19日(金)

- ・研修(前日のグループ学習での成果を代表班が発表)
- ・閉講式

11:45 ホテル磯部ガーデン 出発

17:20 学校着(解散)

■「イカモン」を行って・・・

4月18日から1泊2日で新入生合宿として磯部ガーデンに赴いた。68期生は、合宿のメインの行事として「イカモン」(「いかにして問題を解くか」という名著より命名)、各教師がテーマを設け、班ごとに研究、討議、実験を行った。学年団発足と同時に「イカモン」準備は始まった。大切にすることは、学年全員の教師で行えること、生徒達に自ら考えさせること、学ぶことの楽しさを感じさせること、科目横断的なテーマ学習、そんな気持ちを共有しながら銘々に試行錯誤しながらテーマを煮詰めていった。

生徒達は短い時間でよく発表までまとめ上げたと思うが、見ていた生徒も「発表」とは工夫が必要であることに気がつき、もう少し時間をかけて工夫すればもっと良い発表になったと述べている。このような気づきがこれからの生活に生かされることを望みたい。

(2) 第1学年特別講演会

春日部高校が目指していることの1つが、人として生きる能力、オールラウンドの能力を習得することです。そのことを、豊かな知識や知恵を持つ立場から生徒に届けてくれる人は、そんなに多くはいません。今回講師として迎える「知の巨人」松岡正剛氏は、豊かな世界を生徒に届けてくれる一人です。日本を代表する知識人と言える人物ですし、優しさにあふれています。

朝読の課題図書で松岡氏の著作「17歳のための世界と日本の見方」を読み、その後で講演を聞くことによって、生徒の考えや行動を薄っぺらなものから、がっしりとした中身のあるものへ変えてほしいということを意図して行いました。

日時：平成26年1月22日(水) 14:30~16:15

会場：本校音楽ホール

講師：松岡正剛先生(編集工学研究所所長)

タイトル：「編集する自分」

生徒の事前学習：「17歳のための世界と日本の見方」(松岡正剛著)を読み、読書レポートを作成する。

■生徒の代表が行った講演後のお礼の言葉を以下に掲載する



「今日はお忙しい中、春日部高校でこのような講演を行っていただきありがとうございました。

二学期に学校から課題図書として松岡正剛先生の書かれた『17歳のための世界と日本の見方』が配られました。表紙の絵がとてもユニークで印象的でした。題名にある様に丁度僕らの年代、17歳に対して書かれていたので非常に読みやすかったです。

自分は『編集』というのは単にパソコンによる編集や文章を分かりやすく端的にまとめる事であると考えていましたが、正剛先生は本の中で、編集というのは『新しい関係性を発見していく』というように捉えられていました。更にその編集をしていく中で、人間文化の中で散らばっている様々な事のある関係というところに着目した正剛先生に僕は感銘を受けました。

そして7メートルの境界線の話も深く考えられるものがありました。遠くから見たらヒップホップダンサー、7メートルという境界に入った瞬間、それは一生懸命に全身の筋肉を使い一步一步と歩いている少年。見ている物体は変わらないのに遠ざかったり近づいたりすることで自分のその物体に対する意識、認識が全く変わってしまうということがあるのは自分の実体験と重なるところがあり、共感を覚えました。そしてこの視覚認識の距離感やアングル、これらが映画作成にも応用されていることを知り、物事に対する自分の世界観が広がった気がしました。

他にも物語のマザータイプの話や、枯山水の話など、西洋から東洋、古代から現代まで興味深い話がたくさん書かれていたのでとても楽しく読むことができました。

今回の講演では本の中にあつた話を掘り下げて話していただいて編集、編集力という存在が自分の中で更に大きく変わりました。本で知った編集、それは自分が思っている以上に非常に大きく、すべての文化や事象につながっているということがわかりました。

今日は貴重なお話、ありがとうございました。」

(3) 進路トーク

社会の第一線で活躍されている本校の卒業生から、高校・大学時代の話や、現在の仕事を通しての職業観についての話を聞く。職業の選択や大学選択、さらには人としての生き方を考えるきっかけを作る。

期日 平成26年2月5日(水) 音楽ホール

講師 佐藤祐二さん(筑波記念病院副院長 31回卒)

大塚 聡さん(日本たばこ産業(株)医薬探索研究所 37回卒)

中村卓哉さん(読売新聞東京本社 38回卒)

飯田大介さん(経済産業省 44回卒)

司会進行 戸井田 哲さん(同窓会事務局長 17回卒)

■生徒の感想から

○私にとって最も印象に残ったお話は、各先輩の「4)後輩に望むこと」です。Chanceをつかむ為にいろいろな受け皿を用意しながら生活していく、失敗を恐れずに進む、目標を持ち続けければ chance はある、悩みながら動いてみる、文理にとらわれず、広く知識を身に付けながら創造的な発想法を訓練する、今できることを全力でやりきる、妥協するな・・・心にしみました。この行事で学んだことを忘れず、今後の学校生活を過ごしてゆきたいです。

○四名の先輩はどれも興味深かったですが、共通しておっしゃっていたことは「あきらめるな」「妥協するな」「失敗を恐れるな」「少し高いレベルを見る」など、どれもプラスな考えでした。高校生活の1年間がまもなく終わりますが、先輩たちのトークを糧に有意義な高校生活にしていきたいと思います。

【様式3】

「未来を創造するリーダー育成推進プロジェクト」
 リーダー育成・進学指導重点推進校 進学実績報告書

埼玉県立春日部高等学校

国公立大学

	平成26年度入試			平成25年度入試		
	現役	浪人	計	現役	浪人	計
東京	3	1	4	0	2	2
京都	0	1	1	0	1	1
東京工業	0	3	3	3	1	4
一橋	0	1	1	1	1	2
北海道	2	5	7	2	4	6
東北	6	7	13	2	7	9
名古屋	1	0	1	0	1	1
大阪	1	1	2	0	0	0
九州	1	2	3	0	0	0
筑波	9	5	14	9	3	12
千葉	19	5	24	15	4	19
埼玉	12	8	20	10	8	18
国公立医学部医学科	0	2	2	1	2	3
国立大学・計	70	63	133	72	46	118
公立大学・計	7	3	10	6	6	12

私立大学

	平成26年度入試			平成25年度入試		
	現役	浪人	計	現役	浪人	計
早稲田	35	40	75	45	42	87
慶応	18	16	34	18	16	34
上智	12	11	23	19	17	36
東京理科	32	70	102	54	36	90
学習院	14	15	29	14	16	30
明治	78	63	141	75	65	140
青山	19	9	28	12	12	24
立教	21	25	46	35	27	62
中央	30	41	71	37	40	77
法政	32	40	72	31	33	64
私立医学部医学科	0	2	2	0	1	1

大学入試センター試験（5教科7科目・900点満点）の受験率（現役生）

平成26年度入試	61.70%	(222)人 / (360)人
平成25年度入試	62.90%	(229)人 / (364)人